

第1章

トーナメントの申し込み方

1. 関東テニス協会ジュニア選手登録、日本テニス協会ジュニア選手登録

関東テニス協会ジュニアランキング対象トーナメント(以下 KTA ジュニアランキング対象トーナメント)に出場する選手は、関東テニス協会ジュニア登録番号を取得しなければなりません。(中学校、高等学校選手権大会は除く)登録に関する詳細及び登録方法は関東テニス協会ホームページに掲載されています。

KTA ジュニアランキング対象トーナメントの中には日本テニス協会の JTA ジュニアランキング対象大会となっているものがあり、それらの大会(全国大会に繋がる都県、関東予選大会)に出場するためには JTA ジュニア選手登録番号が必要です。

JTA ジュニア登録番号を取得するには、ジュニア選手が主にプレイしている団体が加盟している都県協会に申請します。詳細は「(公財)日本テニス協会テニスルールブック」に記載されています。

2. トーナメントの資料を手に入れる方法

公式トーナメントや KTA ジュニアランキング対象トーナメントについては、関東テニス協会ホームページや各都県テニス協会から年間スケジュールが発表されます。各都県のテニス協会に問い合わせてもスケジュールを教えてください。

各トーナメントに関する申込要項は、申込時期になるとテニスクラブ、学校などに送られてきたり、指定されたテニスショップ、大会主催者のホームページなどで入手することができます。テニス雑誌に広告が出たりすることもあるので気をつけておきましょう。主催者である協会、クラブ、学校、市町村の担当者に直接請求して得ることもできます。

早めに主催者に問い合わせる入手方法を確認しましょう。

3. エントリー申込方法

大会要項をよく読んでください。要項には大会に参加するための重要事項が書かれています。申込書には、関東ジュニアプレーヤーズ登録番号、名前、住所、所属、性別、生年月日(これはあなたの出場年齢区分を決める上で大切)を正確に記入してください。登録番号など、間違いがあると正しくランキングを反映させることができません。

親やコーチに申込書を書くのを頼むのではなく、自分自身で記入しましょう。

またネットエントリーの場合も注意深く入力し、申し込み完了を確認しましょう。

*各都県クローズの全国大会に繋がる各都県主催予選大会は、所属する団体の属する都県1か所から、申し込むことができます。ただし小学生大会は所属小学校の所在地都県に申し込んでください。

*クローズ大会の所属の判断基準日は原則的に大会の申し込み締め切り日となります。

RSK杯・中牟田杯・U18/KTA杯(一部都県予選開催)・KTA杯U15/U13の関東大会の申込みでは、都県予選を行っていないためランキングによる選考となります。

都県定数枠により推薦されるためには、原則として、締切日を起点として、過去8週間

以上推薦される都県に所属していることが必要です。所属変更を行う場合は、申し込み締め切り日から8週間前の水曜日までに所属変更を完了してください。

*参加費用の支払い方法も各大会で違います。要項をよく確認して支払いましょう。参加料の取り扱い(返金等)については、事前に主催者に確認しておきましょう。

4. どの区分にエントリーするか

ジュニアの大会は普通、18歳以下、16歳以下、14歳以下、12歳以下等年齢により区分されています。年齢の基準は、1月1日から12月31日までです。

通常は、自分自身の年齢区分にエントリーしますが、上の年齢区分にエントリーしてもかまいません。ただし、都県ジュニア選手権大会以外のグレード③の大会とグレード④の大会については、実年齢区分より2区分以上上の種目(例:14歳以下の選手が18歳以下、12歳以下の選手が16歳以下・18歳以下)に出場してもポイントはつきませんので注意して申し込みしましょう。また、10歳以下の選手が14歳以下、16歳以下、18歳以下の種目に出場することはできますが、ポイントは付きません。

*一つの大会で異なる年齢種目に重複してエントリーできません。ドローに氏名が載ったり、出場してしまった場合は両種目とも失格となり、0ポイントになります。

*都県ジュニア(関東ジュニア選手権大会予選)、関東大会、全国大会及び国際大会は2区分以上、上の年齢に出場してもポイントはつきません。

*大会グレード・ポイントについてはP14に詳しく書かれています。

5. ダブルエントリーについて

ダブルエントリーとは、大会要項に記載されている本戦日程が重複している2つ以上の大会に申し込んでいる状態を意味します。予選及び予備日は本戦の日程とはみなしません。大会要項で、本戦と予選の日程を区別して発表していない大会は、すべて本戦の日程となります。本戦が1日でも重複している大会にエントリーした場合は、どちらかを選んで出場してください。出場する大会を決めたら、欠場する大会の主催者に欠場大会の要項に記載されている本戦初日の前日(17:00)までに「欠場届」を提出してください。

エントリーした複数大会の種目(シングルス、ダブルス、年齢区分)が違っていてもダブルエントリーとなります。ダブルスにおいてペアの片方がダブルエントリーの場合、両者とも0ポイントとなります。

本戦が重複している2つ以上の大会(本戦)に申し込むことはできますが、出場したり、欠場届を提出しないと両大会(2大会以上重複している場合は、それらすべての大会)とも予選ポイントも含め「0ポイント」となります。(ランキング対象大会には加えない)本戦日程が大会要項上で1日でも重なっていたら「0ポイント」となりますので注意しましょう。

要項において、種目別に本戦日程が発表されている大会は種目ごとの日程が基準になります。

- 例1) 2大会に申し込んだ選手が、両大会とも最初から本戦ドローに入った場合どちらかを選んで出場してください。その時は欠場する大会の主催者に対して本戦初日の前日(17:00)までに、欠場届を提出してください。

- 例 2) 2 大会とも予選から勝ち上がり、本戦日程が重なっている場合
どちらかを選んで出場してください。その時は欠場する大会の主催者に対して
本戦初日の前日（17:00）までに、欠場届を提出してください。
- 例 3) 1 大会は本戦から出場、1 大会は予選を勝ち上がり本戦出場になった場合
どちらかを選んで出場してください。その時は欠場する大会の主催者に対して
本戦初日の前日（17:00）までに、欠場届を提出してください。
- 例 4) 実際に行われた本戦日程がたまたま重複せずに、両大会とも支障なく試合ができた場合でも、大会要項の日程が重なっていれば「0 ポイント」となります。また、
出場しなくても、欠場届を出さなかった場合は出場したとみなし「0 ポイント」となります。
- 例 5) 天候不順などにより予選が本戦日程にずれ込んだ場合は、予選途中となりますが
要項で発表されている本戦初日の前日（17:00）までに欠場届を提出してください。
- 例 6) 年齢区分 2 区分以上でポイントが付与されない大会（種目）とポイントが付与される大会（種目）に重複して出場した場合でも、大会要項の日程が重なっていれば「0 ポイント」となります。

例外として、

- ① 日本テニス協会・関東テニス協会が主催するグレード 1 および 2 のジュニアトーナメントと重複した大会に出場した場合は、両大会ともポイントが与えられます。
- ② 各都県高体連、中体連（中テ連）の主催するポイント対象大会と重複した場合は、両大会のポイントが与えられます。
- ③ 国際大会は、ダブルエントリーの対象となりません。

6. 大会の欠場について

大会に参加できなくなった時は、必ず主催者にその理由を明記して欠場届を提出しましょう。関東テニス協会では受け付けいたしません。

欠場届には、氏名、登録番号、種目とドロー番号、所属団体名、電話番号、欠場理由を明記してください。用紙は関東テニス協会ホームページより、ダウンロードできます。

提出方法（メール、FAX など）は大会毎に異なりますので、ご注意ください。

欠場届の取り消しは主催者判断となります。主催者に問い合わせてください。

7. ダブルスの申し込み

シングルスと同時にダブルスのトーナメントが開催される場合も少なくありません。ダブルスはペアの試合であるため、あなたのパートナーに対する思いやりや感謝の気持ちについて学ぶことができます。

エントリーに際しては、申し込み要項に合うパートナーを決めて申し込みましょう。同じ所属で同じ年齢区分の人とペアを組む場合は問題ありませんが、トーナメントによって、他の所属や他県の人とペアを組む場合について制限がある場合は、要項をよく読んで、誤りのないように申し込んでください。

同一大会で、シングルスとダブルスを異なる年齢区分に申し込むことはできません。

例：16歳以下の選手が18歳以下の選手と組んで18歳以下のダブルスに申し込む場合
シングルスも18歳以下での参加となります。

8. 締切日に遅れないように

大会要項に書かれてある申し込み締切日に遅れない様に余裕を持って申し込みましょう。
いったん申し込みが締め切られたら、エントリーすることはできません。

第2章

トーナメントへ出場するための準備

1. 予定の確認

試合の予定日に他の行事や約束がないことを確かめておきます。家族の予定もチェックしておきましょう。天候不順等、やむを得ない事情により会場、日程、組み合わせが変更になる場合もあります。多くの大会では変更は大会HPに発表されますので、大会開始直前にも確認するようにしてください。

2. 試合の時間に間に合うように

組み合わせ表、日程表が発表されたら自分の試合予定を確認しましょう。

- ① 集合時間（出席を届ける時間）が決められている大会は、その時刻までに試合のできる服装で出席を届け出てください。決められた時刻までに出席を届けられない場合は欠場となりますので、遅れないよう十分気をつけましょう。
- ② 前もってスケジュールが発表され、自分の試合の時間にコートに入ればよい大会では、試合時刻に遅れたり、行けなかった場合には、ノーショウになります。プレイヤーがノーショウになる場合の時間は、日本テニス協会のルールに従いトーナメントレフェリーの判断によりなされます。

3. 天 候

雨が降っていたり、天気が不確かな場合にも会場に集合して指示に従ってください。トーナメントによっては、ホームページで発表されたり、電話での問い合わせができる場合もありますが、特別な指示がない限りは会場に集合するのが原則になっています。

天候が疑わしい場合には、中止と思わないで下さい。雨は場所によって降らないこともありますし、雨がやむとすぐにできる会場もあるからです。

4. 会場の確認

会場の住所や交通手段を確認して、トーナメントの会場にはどのように行ったらよいか

注意深く調べておきましょう。休日と平日のダイヤが異なるのが普通ですから、開催日のダイヤを調べるのが大切です。車で行く場合には渋滞を考えるのは言うまでもありません。

5. 食 事

会場または会場の近くに食堂がある場合にはそこで済ますこともできますが、わからない場合には弁当、飲物を用意して行きましょう。

6. 緊急の場合の準備

テニスウェアの予備、ラケットの予備、救急用品、その他自分が必要と思うものを用意しておきましょう。交通費、食事などのためのお金も用意しておく必要があります。

第 3 章

トーナメント用語

1. 公式トーナメントと KTA ジュニアランキング対象トーナメント

公式トーナメントとは、公に認められている団体が主催するトーナメントの意味で、そのトーナメントの記録が選手選考などの正式な資料となります。関東テニス協会にとっては、(公財)日本テニス協会、高等学校体育連盟、中学校テニス連盟と関東テニス協会主催のトーナメントを指します。

ジュニアトーナメントは 18 歳以下、16 歳以下、14 歳以下、12 歳以下等年齢区分される他に、高校大会(18 歳以下)、中学大会(16 歳以下)、小学大会(12 歳以下)の区分があります。その中でトーナメントの記録が関東ジュニアコンピューターランキングのデータになるものを KTA ジュニアランキング対象トーナメントと言います。これらジュニアトーナメントには、(公財)日本テニス協会や関東テニス協会が主催するトーナメントと、学校の連盟が主催するトーナメント、都県テニス協会やクラブなどが主催するトーナメントのうち、関東テニス協会が承認したトーナメントがあります。クラブなどが主催するトーナメントは、トーナメントディレクターが関東テニス協会に申請して、関東テニス協会から正式に承認されたときにジュニアランキング対象トーナメントとなります。

2. ランキング

関東テニス協会ではジュニアコンピューターランキングを毎月 2 回(15 日と月末)発表しています。月末発表ランキングには、毎月 15 日までに報告のあった大会、15 日発表のランキングは前月末日までに報告のあった大会結果が反映されます。ただし、8 都県共通で開催されている全国大会につながる大会結果のポイント入力は、8 都県の報告がそろったときに同時に行われます。関東テニス協会 HP ではポイントが反映されている大会を確認

することができます。ポイントはプレイヤーが出場したジュニアトーナメントにおける成績をポイントとして計算して決めています。高校、中学、小学校大会の全国大会及び全国大会の予選となる大会の成績も含まれます。(高校、小学校大会の都県大会は、原則としてシングルスベスト 32、ダブルスベスト 16 より対象)(中学生大会の都県大会はポイント対象外)

ランキングは過去の成績に対して与えられるものですが、これから行われるトーナメントの選手選考などの重要な資料となります。

ランキングは、切れ目のない通年のランキングで、出場した大会で獲得したポイントの上位 5 大会を合計したもので評価されます。大会に出場しポイントを取得した後、年度が替わり同じ大会が行われると、前年度、その大会に出場した選手が取得したポイントは消え、当年度開催された大会に参加した選手にポイントが与えられます。やむを得ず中止となった場合のポイントの対応は関東テニス協会ホームページにてお知らせしています。

ランキングは、年齢、種目に関係なく、18 歳以下すべてのジュニアプレイヤーを対象にランキング順位をつけて発表されますが、関東テニス協会ホームページで確認する際は、年齢別、都県別などに抽出して見るすることができます。

*ここでいう年度とは大会申請年度 4 月 1 日～3 月 31 日を示します。

3. シード選手

シードする理由は、大会参加選手の中で、上位の実力の選手が早い回戦で当るのを避けるためです。

ドローを作成するときには、4 人に 1 人を基本とし、シード選手として選考します。関東テニス協会主催の大会では、原則として、選手選考のコンピューターランキングに従ってシード順位を決定しています。

4. ドローとドロー作成方法

KTA ジュニアランキング対象トーナメントはトーナメント(勝ち上がり)方式によって行われます。大会には参加数の決まっている大会と、参加数に制限が無い大会があります。

エントリー締め切り後、トーナメント委員会は申し込み者の中から選考基準に従って出場者を決定します。

まず、シード選手の位置を決め、その後、残りの選手が抽選でドロー(組み合わせ)に記載されていきます。シード選手の位置は日本テニス協会のトーナメント競技規則に準じています。

参加者数が 4、8、16、32、64 またはそれ以上の 2 の累乗のときは、すべてのプレイヤーは 1 回戦からトーナメント方式で対戦します。

参加者数がそれ以外の場合は、1 回戦で対戦相手のいない場合があります。それを BYE (バイ) と言います。BYE はシード順位の上位者から順番に与えられ、シード数より多い場合はドローの各区画に、できるだけ平均になるよう抽選で決まります。

以上のような手順でドローは作成されますが、現在、関東テニス協会主催大会は JTA から提供されるトーナメント運営用ソフトウェア(JTA トーナメントプランナー)を利用して作成されています。

5. トーナメントレフェリー、ロービングアンパイア

トーナメントレフェリーは大会の期間中、ルールの法的解釈問題に関する最終決定者です。起こった疑問や問題はレフェリーに最終判断をおおぎます。

チェアアンパイアのつかない（セルフジャッジの）試合では、ロービングアンパイアがおかれます。ロービングアンパイアは試合中の選手がすぐに呼ぶことができるよう担当するコートを巡回しています。

6. ペナルティー規定

関東テニス協会では、1996年の関東ジュニアテニス選手権大会からペナルティー制を導入いたしました。これは、ジュニアの皆さんがコート上の技術だけではなく、あらゆる面で高いレベルにあってほしいとの願いからです。

決して罰することを目的としたものではなく、選手がスポーツマンシップに則りコートマナーやルールを理解し、プレイヤーとして責任ある言動を守ることを目的として定められたものです。

関東テニス協会ジュニアテニストーナメント ペナルティー（罰則）規定

1. この規定は関東テニス協会に個人登録している選手全員が対象です。
2. この規定が適用されるトーナメントは次の通りです。
 - ① 関東テニス協会および各都県テニス協会が主催するジュニアトーナメント
 - ② KTA ジュニアランキング対象トーナメントすべて
3. 主な違反事項

	違反事項
1	試合を途中放棄する
2	トーナメント公式行事の出席義務
3	ゲームの遅延行為
4	コーチおよびコーチング
5	ボール、ラケットおよび用具の乱用
6	言葉による侮辱、体に対する危害
7	スポーツマンシップに反する行為

4. ポイントペナルティ制度

試合のコート上で、コード違反をした選手はレフェリー、アシスタントレフェリー、ロービングアンパイアまたは SCU からポイントペナルティ制度に従ってペナルティーが科せられます。

*1 回目の違反 警告

*2 回目の違反 1 ポイント失う

*3 回目以降の違反 その都度 1 ゲーム失う

3 回目以降の違反の場合は違反の度に「失格」にするかどうかを、レフェリーが判断します。

ただし、重大で、悪質なコード違反の場合は 1 回目であってもレフェリーが失格を決

定することがあります。

5. このペナルティーは、試合中はもちろん、大会期間中、選手に対して宣告されます。

6. 「失格」になった選手は、

① コンピューターランキングの獲得ポイントが0ポイントになり、失格となった大会がランキング対象大会5大会の1つに加えられます。

② 関東テニス協会ジュニア大会運営委員会において1年間の出場停止になる場合もあります。

※大会は多くの方たちのサポートにより実施されています。感謝の気持ちを持って参加し、出場した大会を、最後まで戦い抜くことが選手としての義務です。正当な理由がない限り、大会途中で別の予選大会に出場したりすることは、「スポーツマンシップに反する行為」に当たる場合があることを注意して、複数の大会に申込みをした場合でも、最初に出場した大会を最後まで全うするようにしましょう。

第4章

トーナメント会場についたら

1. 受付とドロウのチェック

会場に着いたら、試合ができる服装に着替えて受付をしましょう。親やコーチではなく選手自身がドロウ番号、氏名をはっきりと伝えてください。

トーナメントが KTA ジュニアランキング対象トーナメントである場合には、関東テニス協会に登録しているジュニアプレイヤーズ登録証を提示しましょう。

オフィシャルボードには試合に関する注意事項が貼りだされています。よく読んで、試合形式やウォームアップ時間などを間違えないよう確認しましょう。

相手が全く会場に来ない場合には W.O となり、あなたの勝利となります。他の人が1回戦をやっている間、待つこととなります。

- ・RET(リタイア) … ケガ・病気などの理由で試合を途中棄権したとき
- ・DEF(デフォルト)… 試合前・試合中にコード違反をし、失格したとき
- ・W.O(ウォークオーバー)…相手選手の遅刻、出場辞退などで不戦勝になったとき
- ・Not Played(ノットプレイド)…対戦する両選手が試合に現れなかったとき
- ・No Show(ノーショウ)… 決められた時刻に現れなかったことを意味します

2. 試合の進行

試合は、オーダーオブプレイのボードを使って進行する大会がほとんどです。

下記のような形になっています。

次の試合の順番になったら、ボールを取りに競技本部に行き、自分の試合が予定されているコートで待機しましょう。前の試合が終わったらすぐにコートに入って試合を始めます。(ジュニアの大会では、試合前のウォーミングアップの時間は3分くらいです。すぐに試合を始められるように準備をしておきましょう。)

オーダーオブプレイ

	コート1	コート2	コート3
START AT 9:00	18BS 1R 1. 関東 VS 2. 東京	16GS 2R 15. 神奈川 VS 16. 千葉	14BS QF 16. 埼玉 VS 17. 群馬
FOLLOWED BY	12BS SF 1. 栃木 VS 9. 茨城	18GD F 1. 山梨・甲府 VS 32. 横浜・川崎	14GD 2R 25. 柏・松戸 VS 28. 浦和・大宮
NOT BEFORE 12:00	16GS 3R 17. 新宿 VS 24. 久我山		

SA(START AT) : 試合開始時刻 B : 男子 G : 女子 S : シングルス
D : ダブルス R : ラウンド (回戦) QF : 準々決勝 SF : 準決勝
F : 決勝

NB(NOT BEFORE) : 前の試合が終了しても表示した時刻までは試合を始めない。

FOLLOWED BY : 前の試合が終わったらただちにプレイできるよう準備をする。

3. 試合の服装

テニスウェアを着ましょう。遊び着や練習用シャツで試合をすることはできません。試合にふさわしいかどうかの最終判断はレフェリーがします。服装や用具につけるロゴマークに制限がある大会では事前に確認し用意していきましょう。ウェアを裏返ししたり、テープを貼ったりしたものは、不適切なウェアとして着ることはできません。

4. 試合までの待機

多くのジュニアトーナメントでは、日程の初めは多くの試合が予定されています。日程表によってあなたの試合の予定時刻を知らされますが、予定時刻になっても順番が来ないといって、何度も本部に聞きに行ったりするのはやめましょう。自分の名前がオーダーオブプレイのボードに貼り出されるまで待ちましょう。

もし、相手が来ない場合には、ウォークオーバーになるでしょう。しかし、この決定はレフェリーが行います。

トーナメント会場では、練習するコートがあるのはまれです。もし空いているコートがあっても、トーナメント役員の許可をもらわないで使用してはいけません。

食事、その他で会場を一時離れるときは、必ず競技本部に申し出て許可を得てからにしましょう。会場を離れている間に試合の順番となり、コートに入らない場合はノーショウとなり、相手選手のウォークオーバーとなります。

5. 熱中症対策

夏のジュニア大会・学校大会は、きびしい暑さの中で実施されています。体調をくずさないためにも、こまめな水分補給と氷の準備をしてください。

競技直前には必要以上に日にあたることを避け、試合に入る 1～2 時間前にスポーツドリンクやフレッシュジュースなど水分を十分にとるようにしましょう。

試合コートには十分な水分を持って入りましょう。エンドチェンジには、日差しを正面から受けないようにし、水分を補給しましょう。また、首筋、脇の部分に冷たいタオルをあて、体を冷やしてください。具合が悪くなったら、無理をせずレフェリーを呼びましょう。

試合が終わったら、速やかに日陰に移動し、水分を補給し、クーリングダウン、ストレッチやアイシングをしましょう。

6. ジュニアの保護者、コーチの皆様へ

トーナメントを計画通り進行させるのはむずかしいことです。大会主催者は努力をしますが、限られた施設で試合を行いますので、なかなか計画通りに行かないことが多いものです。

ジュニアプレイヤーは試合を待つ間、友人をつくったりして案外気楽にふるまえるものですが、保護者、コーチの皆様は気が休まらないことでしょう。しかし、皆様が大会本部にクレームをつけたりすることは、大会の進行に混乱を引き起こすだけでなく、子供たちにも影響を及ぼすことになります。

ほとんどの大会において、試合中に保護者、コーチの皆様はアドバイスすることはできません。歯がゆく思うことも多くあるかもしれませんが、選手自身が判断し、全力を尽くすことが選手の成長に繋がります。

保護者、コーチの皆様は、目前の試合の勝ち負けに一喜一憂することなく、スポーツマンシップに則ったフェアな試合が行なわれるように、見守ってくださいますようお願い申し上げます。

また、会場施設の使用上のルールを順守していただき、ごみの放置や路上駐車など近隣住民の方に迷惑をかける事の無いよう、マナーの向上に一層のご協力をお願いいたします。

第 5 章

試合の合間の行動

1. 試合の最後のポイントが終わったら

試合が終わったら、すぐにネットのところに行き相手選手に感謝して握手をしましょう。負けたからといってあいさつもしないで立ち去ったり、ふてくされたりしてはいけません。審判、相手選手と一緒にスコアの確認をしてください。

スコアボードを元にもどし、必要な場合はコート整備をし、勝者が試合球を持って、すぐ

にスコアを報告してください。勝った場合には、次の試合の予定をチェックします。
ダブルスの試合にも出場している場合には、このスケジュールのチェックもします。

2. 連続して試合を行う場合

続けて試合に入る場合には、次の試合をする前に規定の休憩時間をとることができます。しかし、天候や進行の都合で役員が決定したときは、休憩時間が短くなることもあります。日程通りに試合を進行させるために、1日に3セットマッチでシングルス、ダブルス合わせて3試合行うこともあります。

3. 辛抱強く待つこと

次の試合を待つ間、他人のプレイをよく観察しましょう。しかし、プレイ中の人のじゃまをしてはいけません。プレイをしているコート付近では大きな声で話をしないように気を付けましょう。

読書をしたり、次の試合にそなえて体を動かしたり、友人と談笑しながら時間を過ごすのもよいでしょう。ただし、路上や駐車場などコート外でボレーボレーをしたりするのは危険です。

次に当たる相手がプレイしている場合には、よく観察しましょう。

上位の選手をよく観察しましょう。大会に参加することの意味ある点の1つは、より上手なプレイヤーのプレイを観ることができることです。

昼食に出かけるときには、必ず大会本部に申し出て、許可をもらってから出かけ、役員があなたを探しまわることがないようにしましょう。

施設を大事に使用してください。あなたの持物を放置したり、クラブハウス内を走ったりしてはいけません。飲物の空き缶やゴミは決められたところに捨てましょう。ゴミ箱が設置されていない会場では各自持ち帰りましょう。

4. その日に会場を去る前に

大会本部で次の予定をチェックしないで会場を去ってはいけません。既に発表されている日程が変更される場合もあるので、次の日のスケジュールを確かめ、何時に来たらよいかを確認しておきます。

大会は多くの人たちの協力によって開催されていることを理解し、会場を去る前にはそれらの人たちに挨拶して帰るようにしましょう。

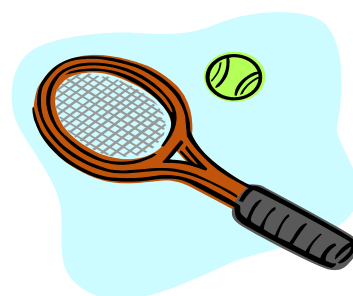
5. 自分のことは自分で

自分自身のめんどろは自分でみるものです。たとえ保護者が会場について来ても、受付、試合時間の確認、スコアの報告、ボールの返却などすべての細かいことまで自分のことは自分でしましょう。ジュニアトーナメントはあなたのためにあるのであって、大人のためにあるものではありません。

試合中に相手選手のジャッジに不服があったり、スコアが食い違うなど問題が起きた時は、すぐに自分自身で審判や役員に申し出てください。保護者やコーチに頼むことはでき

ません。審判や役員はすべての選手の話の話を公平に聞いてくれます。自分自身の意見を、はっきり言えるようになることもトーナメントでの経験の大きい成果です。

また普段から試合をしていて疑問に思うことやわからないことがある場合には、本部に質問してください。選手自身がルールを学び、理解することはフェアプレイの向上のためにとっても大事なことです。



第6章

トラブルとその解決

1. エントリーを忘れること

トーナメントはエントリー締切日を厳密に守りますのでその締切日を確認してください。全国大会や関東大会のような大きなトーナメントでは、各地域または各都県協会の推薦が必要で、人数に制限があります。したがって、正しく申し込んだ人のうちから、成績により推薦された人が出場可能となります。

ドローが発表された後に出場できる場合があるとすれば、上位の人が棄権したときなどに、その代りに出ることのみです。

2. 交通機関の遅れ

公共の交通機関の事故は、遅刻の理由となる場合もあります。公共の交通機関の事故にあった場合には、早い段階で大会本部に連絡し、駅で発行する証明書を持参すれば、大会運営に支障の無い範囲で、都合をつけてくれることもあります。ただし、大会によってはどんな理由でも遅刻が認められない大会もあります。

3. ドローやシードが不公平

新人の多くは、なぜ、自分がトップシードの人と1、2ラウンドで試合をすることになるのかわからないものです。ドローはルールに従って抽選で決定されていくものです。ドローは公平に作成されるものであることを知れば、この文句は出ないでしょう。

4. セルフジャッジ

現在、ほとんどの大会がセルフジャッジで行われています。試合中起こるトラブルのほとんどがアウト・フォールの判定や、スコアの食い違いによるものです。ジャッジコールをしない、ハンドシグナルも曖昧などジャッジが相手にわからない場合や、スコアコールをしないというようなセルフジャッジの方法を守らない試合の進め方が原因です。

日本テニス協会ではチェアアンパイアのつかない大会での正しいセルフジャッジを目指し、「セルフジャッジの5原則」を発表しています。

セルフジャッジ 5 原則

- ① 判定が難しい場合は「グッド」(相手有利に)！
- ② 「アウト」「フォールト」はボールとラインの間に、はっきりと空間が見えたとき！
- ③ サーバーはサーブを打つ前、レシーバーに聞こえる声でスコアをアナウンス！
- ④ ジャッジコールは、相手に聞こえる声と、相手に見えるハンドシグナルを使って速やかに！
- ⑤ コートの外の人には、セルフジャッジへの口出しはしない！

この5原則を基に、ボールの着地をきちんと確認してジャッジをし、両方の選手でスコアを確認して、次のポイントに入るようにしましょう。

5. 相手の親や関係者による妨害

応援の皆様は隣接して行われている試合も含め、プレイの妨げになるような過度の応援はお控えください。

また、保護者の方や指導者がコート外からジャッジコールをしたり、相手選手のジャッジにクレームをつけたりすることは厳にお慎みください。

選手は相手選手の応援の人たちの応援が、妨害と感じた時には、ロービングアンパイアに申し出てください。

6. 緊急事態で次のプレイができない場合

次のラウンドをプレイできないことが明らかなどときには、すみやかに大会本部に届けなければなりません。

7. 大会が終了したら

大会が終了したら大会 HP に結果が発表されます。自分の結果に間違いがないか、確認しましょう。もしも間違いがあったら、直ちに大会主催者に申し出てください。

第7章

コンピューターランキング

1. KTA ジュニアランキング対象トーナメントのグレードについて

ジュニアトーナメント等のポイント対象大会にはトーナメントでの成績をポイントで計算するためにグレードがつけられます。

グレードは年頭に発表され、各大会の要項にも記載される基本グレードが1から4まであります。ランキングは、関東テニス協会ホームページ(<http://www.kanto-tennis.com>)で確認できます。携帯電話からも確認できます。

1) 基本グレード

- グレード1** : (公財) 日本テニス協会主催の全国大会・高校の全国大会
- グレード2** : 関東テニス協会主催の大会(共催大会は除く)・関東高校大会
- グレード3** : 都県テニス協会主催でクローズの大会と
全国高校都県予選大会
A 東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県
B 群馬県、茨城県、山梨県、栃木県
- グレード4** : 都県テニス協会主催のクローズ大会以外の大会と各種団体が主催する大会
A 地域性、時期などを考慮し、ドロー数がシングルス 32、ダブルス 16
以上でかつシングルス 32、ダブルス 16 から 3 セットマッチで行うこと
を原則とした大会
B ドロー数がシングルス 16、ダブルス 8 以上でかつシングルス 16、ダブル
ス 8 から 3 セットマッチで行うことを原則とした大会
C 1 セットマッチ (ノーアドバンテージを除く) 以上
- ※国際大会：ITF 大会、ATF 大会は申請内容によりグレードを決定
- ※中学生大会のポイント
各都県中学生大会⇒ポイント対象外、
関東中学生大会・全国中学生大会⇒グレード 4C

2) グレードによるポイントの考え方

18歳を最終の目標と定め強化していくために、すべてのジュニアが18歳以下のポイントを持つようにします。また、多くの大会に挑戦してもらい、それをポイントに反映させていくため、5大会の合計をランキング対象ポイントとします。(6大会以上出場した場合には、上位5大会を合計)各選手のランキング対象ポイントを獲得した大会名はKTAホームページ(ランキング)で確認できます。

10歳以下の種目については、低年齢の怪我、故障の予防のためにランキング対象とはしていません。

国際大会のポイントは、本戦シングルスベスト 32、ダブルスベスト 16 より、関東テニス協会に登録し、登録番号を持っている選手に付与されます。

2. ポイント表によるポイント計算

KTA ジュニアランキング対象トーナメントに出場したプレイヤーには、そのトーナメントでの成績に対してポイント表によりポイントが与えられます。大会に申し込んでドローに氏名があっても、出場しなかった場合は理由を問わず、すべて0ポイントとなります。

- 1) 各トーナメントのグレード別、年齢区分別のポイント表は毎年（2月上旬）KTA ホームページ（トーナメントガイド欄）に発表されます。
- 2) ポイント表においてポイントが与えられるドロー数に満たないトーナメントの時も、実際のドロー数に応じたポイントが与えられます。
- 3) ポイント表にあるドロー数を超えた場合は、ポイントが与えられるラウンドまで勝ち進まなければ、出場してもポイントは与えられません。
- 4) 予選がある場合は、繰り下がりポイントが与えられます。
例：本戦32ドローの予選決勝敗退者はベスト64、予選ベスト4はベスト128
- 5) **BYE**(バイ)が1つまたは連続して2つ以上あった選手が初戦敗退の場合は、負けたラウンドから1つ戻ったラウンドのポイントが与えられます。
例：1回戦**BYE**で、2回戦敗退の場合は1回戦敗者のポイントとなります。
- 6) 予選、本戦に分かれている大会で、本戦ストレートインの選手が出場しなかった場合、ポイントは付与されません。予選は勝ち上がり本戦を欠場した場合は、理由にかかわらず、予選決勝敗者のポイントとなります。
- 7) 初戦をプレイした後、棄権または試合途中リタイアした選手は、到達したラウンド敗者としてポイントが与えられます。
- 8) ダブルスは、そのグレードのシングルスと同じポイントがチーム両選手に与えられます。
- 9) 3位決定戦が決勝と同じ試合形式に限り、3位のポイントが与えられます。

第8章

付 録

1. セットブレイクルール

各セットの第1ゲーム終了後とタイブレイク中は、プレイは連続的でなければならないという規則により、休憩なしでエンドを交代しなければなりません。各セットともセットが終了したときは、そのセット最終ゲーム最終ポイントが終了したときから、次のセット第1ゲーム第1ポイントのサービスが打たれるまでの間最長120秒間の休憩をとることができます。（このセット終了後の120秒間の休憩をセットブレイクと呼びます）

2. タイブレイクセットの方法

タイプレイクは6ゲームオールになった時に行い、その進め方は次に示す通りです。

- (1) サービスの順とサービスサイド
第13ゲーム目をサーブする順番のプレイヤーが最初の1ポイントをサーブします。第2ポイント、第3ポイントを相手がサーブし、その後は2ポイントごとにサーブを交代します。
最初のポイントは右サイドから、次は相手が左サイドから、次に右サイドからサーブをします。続けて奇数ポイントは右から、偶数ポイントは左からサーブします。
- (2) 2ポイント以上の差をつけて7ポイントを取ったプレイヤー(または組)がそのゲームおよびそのセットの勝者となり、スコアは7-6と記録されます。6ポイント・オールとなったときは、一方のプレイヤー(または組)が2ポイントの差をつけるまで続けられます。
- (3) タイブレイクゲームでは、「ゼロ」「ワン1」「ツー2」「スリー3」・・・と得点を数えます。
- (4) 6ポイント終了ごとにエンド・チェンジ(コートの交代)をします。タイプレイクゲーム中のエンド・チェンジに休憩時間はありません。
- (5) タイブレイクゲームの次のセットの第1ゲームはタイプレイク第1ポイントのサーバーがレシーバーとなります。

3. いろいろな試合方法

- (1) ショートセット
相手より2ゲーム以上離して先に4ゲーム取ったプレイヤー・チームがそのセットの勝者となる。4ゲームオールになった時はタイプレイク・ゲームを行います。
または、(公認団体が承認すれば)3ゲームオールになった時、タイプレイク・ゲームを行います。
- (2) 8ゲームプロセット
2ゲームの差をつけて先に8ゲームを取ったプレイヤー・チームの勝ちとなる。8ゲームオールになったときにタイプレイクをします。
- (3) ノーアド方式
両方のプレイヤーが3ポイント取って40-40「デュース」となったら、次の1ポイントでそのゲームの勝敗を決めます。そのときレシーバーはレシーブする場所をコートの右にするか、左にするか選ぶことができます。
- (4) マッチタイプレイク(7ポイント・10ポイント)
1セットオールになったときに、ファイナルセットをプレイする代わりにタイプレイクを行います。2ポイントの差をつけて7ポイントまたは10ポイント先に取ったプレイヤー・チームがその試合の勝者となります。

4. セルフジャッジの方法

(この文章は「JTA テニスルールブック」をJTAの許可を得て一部転載したものです。)

- ① サーバーはサーブを打つ前、レシーバーに聞こえる声でスコアをアナウンスする。プレイヤー同士、アナウンスによってその時点のスコアを確認する。
- ② ネットより自分側のコートについて判定とコールをする。ボールがラインにタッチした時、ボールとラインの間に空間が見えなかった時、あるいはボールを見失って判定

できなかったときは「グッド」である。ボールとラインの間に、はっきりと空間が見えた時は「アウト」または「フォールト」である。

- ③ 判定とコールは、相手にはっきりと分かる声とハンドシグナルを使って、ボールの着地後速やかに行う。代表的なハンドシグナルは、人差し指を出して「アウト」「フォールト」を示し、手のひらを地面に向けて「グッド」を示す。
- ④ 誤ったコールを直ちに訂正した場合
インだったボールを誤って「アウト」「フォールト」とコール（ミスジャッジ）したとしても「グッド」に訂正（コレクション）した場合は、1回目は故意ではない妨害としてポイントレットにする。ただし、ミスジャッジの前に打たれたボールが明らかなウィニングショットまたはエースだった場合は、ミスジャッジをしたプレイヤー・チームの失点となる。そして、2回目以降は故意に妨害したとして失点する。
- ⑤ ダブルスの判定とコールは、1人のプレイヤーが行えば成立する。しかし、ペアの両選手の判定が食い違った場合はそのペアの失点となる。ペアの判定が食い違ったとしても「フォールト」「アウト」をコールしたプレイヤー／チームが直ちに「グッド」に訂正した場合は、1回目に関り故意ではない妨害としてポイントレットとなる。ただし、ネット、ストラップまたはバンドに触れたサービスを、1人が「フォールト」、パートナーは「レット(グッド)」とコールした場合は、「(サービスの)レット」となる。
- ⑥ クレーコートでは、相手コートへ行ってボールマークを見ても良い。判定やボールマークが相手と食い違った場合は、レフェリーが最終判定をする。判定できるほどのマークが残っていない場合は最初のコールが成立する。クレーコート以外はボールマークのチェックを行うことはできない。
- ⑦ インプレー中、他コートからボールが入ってくるなどの妨害が起こった場合は「レット」とコールしてプレイを停止し、そのポイントをやり直す。
- ⑧ インプレー中、プレイヤーがラケット以外の着衣・持ち物を相手コート以外の地面に落とした場合、それが1回目の時は、レットをコールしてプレイを停止し、そのポイントをやり直す。2回目以降、落とすたびにそのプレイヤーが失点する。レットのコールは、落とし物をしたプレイヤー・チームがコールすることはできない。相手プレイヤー・チームが妨害を受けた時に限りコールできる。ただし、落としたことがプレイに影響を及ぼしていない場合はポイントが成立する。
- ⑨ スコアが分からなくなった時は、双方のプレイヤーが合意できるスコアまでさかのぼり、それ以降のプレイで双方が合意できるポイントを足したスコアから再開する。合意できなかったポイントは取り消される。ゲームスコアが分からなくなった時も同様に処理する。再開する時のエンドとサーバーは、合意されたスコアに準ずる。ただし、ゲームスコアが訂正され、再開する場合のサーバーは、次の順のサーバーに交代しなければならない。（同じプレイヤーが2ゲーム連続サーバーになれない）
- ⑩ 次の場合はレフェリーまたは、ロービングアンパイアに速やかに申し出る。
 - (a) 試合中、トイレ、着替え、ヒートルールなどでコートを離れる時
 - (b) 相手プレイヤーの言動やコール、フットフォールト等に疑問、不服がある時
 - (c) プレイヤー同士で解決できないようなトラブルが起こった時
- ⑪ メディカルタイムアウトを取りたい時は、レフェリーまたはロービングアンパイアに速やかに申し出る。トレーナーのいない大会ではプレイヤー自身が手当をすることができるが、レフェリーまたはロービングアンパイアによって、手当を必要とする状態かどうか確認後、その許可を得て3分以内に処置を行う。

- ⑫ 試合終了後、勝者は大会本部に試合ボールを届け、スコアを報告する。
- ⑬ 各判定とコールする権利者は以下のとおりとする。
- a. 「フォールト」「アウト」「グット」はネットから自分側のプレーヤー・チームのいずれかがコールでき、その判定が成立する。
 - b. 「ネット」「スルー」「タッチ」「ノットアップ」「ファウルショット」は両プレーヤー・チームのいずれかがコールでき、その判定が成立する。
 - c. 「フットフォールト」はコート内にいるレフェリー（アシスタントレフェリー）、ロービングアンパイアのいずれか。
- ⑭ 妨害によるレットのコール
コート外からの妨害による「レット」のコールは両プレーヤー・チームができる。対戦相手による無意識の妨害（落とし物を含む）は妨害を受けたプレーヤー・チームのみ「レット」をコールできる。2回目以降は故意に妨害したとして失点する。
- ⑮ 対戦相手からの故意の妨害
「ヒンダランス」は、妨害を受けたプレーヤー・チームからの申し出によりレフェリー（アシスタントレフェリー）、ロービングアンパイアが判断する。ただし、妨害を認知しながら意識的にプレーを続行した場合は妨害とみなされない。

5. ソロチェアアンパイア（SCU）

国内大会のみで採用されるSCU方式は、ラインアンパイアがつかず、プレーヤーがラインの判定をセルフジャッジ、SCUがライン以外の判定を行う。SCUはそのプレーヤーのライン判定が明らかに間違っていると判断した場合、直ちにオーバールールし、次の処理をする。ただし、プレーヤーがアピールをした後に、オーバールールすることはできない。

禁 転 載

関東テニス協会並びに同ジュニア大会運営委員会の許可なく転載または複製を禁じます。

ジュニアプレイヤーの テニスハンドブック

1983年3月25日 発行
2022年9月1日 第17版発行

発 行 者 関東テニス協会
編 集 者 関東テニス協会ジュニア大会運営委員会

発 行 所 関東テニス協会
電話 (03) 3374-3008
〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷 1-1-2
朝日生命幡ヶ谷ビル 2階